

<H26年度第5回「自転車セミナー」>報告書

日 時：平成26年12月3日（水）18：00～19：30

場 所：自転車総合ビル6階 601会議室

講 師：廣瀬佳正氏 <宇都宮ブリッツェン ゼネラルマネージャー>

テーマ：「地域密着型プロロードチームの可能性」

人 数：44名

廣瀬氏は、1977年栃木県生まれ。

自転車競技の名門、作新学院高等学校入学を機に、自転車競技を始める。その後、ブリチストンアンカー、スキルシマノなどのチームを経て、栃木のプロロードチーム「宇都宮ブリッツェン」設立に携わる。チーム設立後は、自身も選手として活躍し、第46回 JBCF 東日本ロードクラシック群馬大会において優勝を果たしている。2012年に選手を引退し、翌年より同チームのゼネラルマネージャーとして活躍中。

<要 旨>

最初に私の6年間の活動内容について報告します。

私の将来像は、競輪の神山選手や野球の江川卓選手でした。

その後、兄の影響もあり、地元でジャパンカップを見てからは、競輪選手から自転車競技に憧れを抱くようになった。

最初は、佐野市のクラブチームに5年間活動しました。

TOJの東京ステージを観戦してからは、シマノレーシングチームに加入したい気持ちが高まり、2003年に同チームに入団しました。

その後、2年間ヨーロッパにて活動しました。

いつかヨーロッパの選手と走りたいとの願望があり、その後、世界最高峰のスタート地点に立ってから引退を決意した。

宇都宮にプロチームを作りたい。

私が、2007年に選手引退を決意してからのブリッツェン設立の背景には、宇都宮を自転車の町興しにしようと思ったからです。

宇都宮市内に企画書を配信→1通のメールが届く



2008年6月 ブリッツェンの設立

2009年1月 コンチネンタル登録

1年半で選手、スポンサー集め

2010年 サイクルスポーツマネジメントに宇都宮市から出向者

2012年 Jプロツアー総合優勝

2014年 新たに5人の選手が加

[チームの収入]

① 事業収入

実業団は、レーシング部に予算が確保される

我々は、スポンサー収入だけ→ユニフォーム22社

以外 92社

サプライヤー39社

計 153社

県外のスポンサーは、ミヤラ・メリダの2社

② その他収入

ロードレースのチケット収入は無いが、イベント収入（サイクリングの開催等）で賄う
また、選手のゲスト出演や肖像権などの収入

- サイクルピクニック→エントリー費収入
- 那須ライド→企画費としての収入
- 宇都宮市委託事業→自転車事業の委託（今年からは、ジャパンカップの一部事業）
1億7千万円のイベント
- 森林公園内のサイクリングターミナル（ブリッツェンが指定管理者として運営）
- 宮サイクルステーション（スポーツバイクのレンタル）
- 介護予防いきいき健康自転車教室の開催
- メディア、イベント出演等

[収支状況]

- 2013年決算

スポンサー収入4500万（全体の50%）

残り50%→イベント、物販、個人支援等

（約1億円）→1年目は、2600万

↓

選手8人の運営費

[プロスポーツ]

栃木には、以下の4つがあり、自転車競技は、その一部

- アイスホッケー
- バasketボール
- Jリーグ
- 自転車競技は、メディアへの露出が多数である
（Jスポーツ、NHK、とちぎTV等）

↓

チームの広報にはTV出演が有効→また、ラジオ、地元FM・AMへも出演

また、栃木は、自転車保有率が高いため、その他マスコミへの露出も大事

↓

下野新聞（30万部発行/1年間の活動記事掲載）

フリーペーパー（SPOCON/コンビニ配置）

[ウィラースクールの開催]

2009年 1300人

2012年 5800人 →計6年間で3万人が受講（3万人がブリッツェンを知っている）

2014年 7000人等

↓
ロードレースを知るきっかけ

↓
子供は、ロードを知らない/走る場所ない/部活がない

↓
まずは、ロードを知ってもらおう

↓
将来、ブリッツェンを目指す選手になるかも？

[安全教室]

- 自転車安全教室

補助輪卒業プロジェクト（宇都宮市オリオン通りで開催/補助輪を外す）

- いきいき健康安全教室

高齢者と触れ合いながらストレッチ→健康になってもらう

[地域密着型への協賛]

足銀クオカード

関東交通サイクルタクシー（20台キャリア付き）

乳がんキャンペーン

AED利用促進DVD等

[今後の課題]

- プロリーグの設立
- ツールド栃木（ホームレース開催）
- スポーツツーリズムの強化（自転車で観光）
- 東京オリンピック出場
- ツールドフランスで表彰台に登壇する選手を輩出等



以上